

【エリアの特性】

＜自然＞

河川が合流し、水と緑の道があるまち

エリア内には寝屋川導水路や寝屋川が流れ、淀川の源水を導水路・寝屋川浄化ポンプ場を経て、寝屋川に放流しています。

寝屋川河川敷には、低木のヒラドツツジが見られ、友呂岐緑地には、水と緑の自然空間があります。

エリアの西側を通る京都守口線の沿道では、工場、倉庫、住宅、商業施設などが混在する中に生産緑地も残されています。

＜歴史・文化＞

池田の低湿地帯にできたまち

古くは低湿な池がしだいに埋まり、その後、人工的に埋めたてた水田地に発生したまちです。

田園地帯の中の集落には、野神さんや社寺が点在しています。

江戸時代の初期、市の西部一帯の水利に多大な功績を残した喜多家第六代の喜多重勝の墓碑もあります。

＜人工・都市＞

寝屋川より西地域を展望できるまち

寝屋川の西側には、友呂岐緑地、池田1号公園、また、南北に多くの中小河川が流れ、公共施設として、寝屋川浄化ポンプ場、寝屋川消防署、桜、池田、石津小学校などの施設が点在しています。倉庫や住宅などが建て込んでいますが、まだ、生産緑地も残されています。

また、エリア南側の境界部を（都）池田秦線が通り、市の東西地域を結ぶ幹線道路としての役割を果たしています。

景観整備の方向

水郷地の特性を活かしたうるおいと基幹的な道路沿いに活気を育むまち

景観形成の基本目標

景観形成に向けた誘導基本方針

＜自然＞

- 寝屋川導水路や寝屋川、石津第二水路、二十箇水路、友呂岐水路、寝屋川第三・第四水路、池田第一水路、支線水路、古川など水路空間を大切にすまち

- 水路・水辺をいかす。
- ・水路・水辺空間の活用
- ・寝屋川第三水路、支線水路などにおける親水空間としての演出

＜歴史・文化＞

- 古代の茨田池の故池、古川の最上流地の低湿な池が埋まった説などの歴史を持つ池田（池田一・二丁目、池田本町）、石津元町の旧集落、若宮八幡宮の社寺や社寺林などの歴史景観を活かすまち

- 歴史の香りを大切にす
- る。
- ・池田、石津元町の旧集落、付近の水路沿いの緑地、付近に残された田園風景などの活用
- ・社寺や社寺林の歴史景観の活用

＜人工・都市＞

- 幹線道路沿いの業務・工場などの働く場や暮らしの場として、水路・河川の水辺を活かしたうるおいを育むまち

- 幹線道路沿いに活気をもたらす、住宅地に水と緑のあるまちをつくる。
- ・幹線道路沿道の工場・事業所などの建物に緑が映える演出や美しいまちなみ形成の誘導
- ・住宅地内の水路・河川の水際空間や緑地・公園などの緑を活用したうるおいの創出

景観資源と特性図



■景観基本単位

名 称	＜水の合流＞桜木町・石津南町付近	＜旧集落地＞石津元町	＜旧集落地＞池田1，2丁目	＜旧集落地＞池田本町
景観整備の目標	○河川が合流する付近の水際と友呂岐緑地、桜木町第2公園の植栽の緑が住宅地に映えるまち。	○寝屋川導水路、二十箇水路沿いの旧集落地の古いまちなみを守り育てる。 ・旧集落地付近の水辺を大切にする。	○古川の最上流地にある旧集落、水路と民地の緑などの古いまちなみを守り育てる。 ・旧集落地付近の水辺を大切にする。	○古川、寝屋川第三・第四水路、付近の旧集落、水路と民地の緑など古いまちなみを守り育てる。
活用する景観資源	○寝屋川、寝屋川導水路、友呂岐水路、二十箇水路、石津第二水路の活用 ○緑地や公園の緑の活用	○水路の活用 ○古いまちなみや社寺、社寺林の活用 ○寝屋川導水路右岸線を水辺の景観を楽しむ散策路として活用	○水路の活用 ○古いまちなみや民地の緑の活用 ○公園内の水路や緑を景観資源として活用	○水路の活用 ○古いまちなみや民地の緑の活用